

国債に係る海外説明会（海外 I R ・ 第 3 回）について

1．開催場所、日時

場 所	日 程	参加者
オランダ(アムステルダム)	1月16日(月)	約50名
フランス(パリ)	1月17日(火)	約60名
イギリス(ロンドン)(注1)	1月18日(水)	約110名
ドイツ(フランクフルト)	1月19日(木)	約90名

(注1) ロンドンにおいて記者レクを実施。日経、朝日、読売、時事、共同、ブルームバーグ、ダウジョーンズ、ロイター、ユーロウィークの9社が参加。

(注2) 招待先の選定、会場の設営等について国債市場特別参加者の協力を得た。

2．説明の概要

- (1) 日本経済及び財政政策について - 渡辺財務官 -
(経済情勢、 長期的な財政の見通し)
- (2) 最近の国債管理政策について - 鷲見国債業務課長 -
(発行市場の状況、 流通市場の状況、 最近の諸施策)
- (3) パネルディスカッション、質疑応答

3．主な質問等

- 日本経済及び財政政策等に対する質問
 - ・ 景気回復や今後の物価動向は金利上昇見通しにつながらないか。
 - ・ 日本経済にとってのアップサイドの要素は何か。
 - ・ 財政再建に当たり歳出削減と歳入改革のどちらに力点を置くのか。
 - ・ 消費税の引上げは経済に負の影響を与えないか。
 - ・ 金融緩和政策をめぐって財務省と日銀の間に対立があると言われているが、実際の関係如何。
- 国債管理政策に対する質問
 - ・ 郵政民営化が国債市場に与える影響について。
 - ・ 国債の商品性を多様化する考え(特に30年超債の発行)はあるか。
 - ・ 海外投資家の国債保有比率に目標はあるのか。
 - ・ 物価連動債の会計問題について。